

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東北公益文科大学
設置者名	公立大学法人東北公益文科大学 ※令和8年4月に学校法人東北公益文科大学から設置者変更

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
公益学部	公益学科	夜・通信	16	14	24	54	13	
国際学部	国際コミュニケーション学科	夜・通信		0	2	18	13	
(備考) 令和8年度見込み								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.koeki-u.ac.jp/site/academics/completion-guide.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北公益文科大学
設置者名	公立大学法人東北公益文科大学 ※令和8年4月に学校法人東北公益文科大学から設置者変更

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/officer-list.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	大学学長	2026(R8).4.1 ～2028.3.31	経営・教育研究担当
非常勤	企業経営者	2026(R8).4.1 ～2028.3.31	地域貢献・地域連携 担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北公益文科大学
設置者名	公立大学法人東北公益文科大学 ※令和8年4月に学校法人東北公益文科大学から設置者変更

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>例年10月の教育推進委員会で次年度のシラバス作成方針が協議され11月の教授会において全学で共有される。11月から1月にかけて各担当教員がウェブ上のフォーマットを活用して作成する。その後、教育推進委員が分担してすべての科目の第三者チェックを実施し、3月中にシラバスをウェブ上で公開している。</p> <p>シラバスに記載している項目は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシーに定める能力のうち、当該科目で育成するスキル ・アクティブラーニングの形態 ・教職課程科目、社会福祉士課程指定科目かどうか ・実務家教員の担当科目かどうか ・地域に関する学習が含まれるか ・科目名(英語名) ・担当教員 ・開講時期 ・科目ナンバー ・単位 ・授業概要 ・到達目標 ・スキルの育成方法 ・授業計画(毎回の授業内容、事前事後学修内容とその所要時間) ・成績評価基準 ・前提科目・後継科目 ・教科書 ・参考書 ・その他・注意事項 ・文理横断型科目かどうか ・SDGsに該当する科目かどうか 	
授業計画書の公表方法	https://sip.koeki-u.ac.jp/uprx/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

シラバスの「成績評価基準」欄に各科目の評価基準を明記しており、その基準に基づいて厳格かつ適正に成績評価をしている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPAは履修した科目の成績評価を数値化し、1単位あたりの平均点を算出したもの。1単位あたり「秀＝4」、「優＝3」、「良＝2」、「可＝1」、「不可＝0」に置き換えて数値化する（2単位の科目の成績評価が「秀」の場合、その科目のGPは「8」となる）。

半期または通年のGPAを算出し、これによってCAP制の上限単位数を設定しているほか、半期ごとのアドバイザー面談でも前学期の振り返りに活用している。また、特待生の更新審査にも利用している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.koeki-u.ac.jp/site/academics/completion-guide.html>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、学士課程、各学部にてディプロマポリシーを策定し公表しています。また卒業要件を明確に定めており、学生には各学期に行うガイダンスやアドバイザー面談にて説明し、認識を深めるように努めます。4年以上在学し、卒業要件に定める単位を修得した者について各教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定します。</p> <p>○東北公益文科大学学士課程 ディプロマポリシー</p> <p>東北公益文科大学学士課程では、「尊重し調和へ」の理念に基づき、「公益」の視点から多様な人々と協働し、持続可能な社会の発展に貢献する人材を育成します。</p> <p>この目標の達成のため、本学では教育課程を通じて、卒業に必要な単位を修得し、所属する学部が定める卒業要件を満たし、次の学修成果が確認できたものに学士の学位を授与します。</p> <p>DP1 知識・理解 幅広い知識と専門分野における基本的な知識を身につけ、それらを活用して、社会の諸問題を多角的な視点からとらえることができる。</p> <p>DP2 コミュニケーション力・発信力 相手の考えや情報を正確に理解し、自分の考えや情報を正確に伝え、相互理解に基づいた交流を行うことができる。</p> <p>DP3 国際感覚 自国の歴史と文化を理解し、世界の動向に積極的に関心を持ち、多様な文化を持つ人々とコミュニケーションをするための知識とスキルを備えている。</p> <p>DP4 創造力・企画力 既存の情報や知識を収集・分析し、現状の課題を明確化し、解決のためのアイデアを提案した上で、それを実現するための計画を立案することができる。</p> <p>DP5 リーダーシップ 多様な価値観を持つメンバーの個性や多様な意見を尊重し、共通の目標に向かって、自ら考え、互いに協力し、責任をもって行動することができる。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/koeki-u-policy.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東北公益文科大学
設置者名	公立大学法人東北公益文科大学 ※令和8年4月に学校法人東北公益文科大学から設置者変更

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/list13-37.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/list13-37.html
財産目録	https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/list13-37.html
事業報告書	https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/list13-37.html
監事による監査報告(書)	https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/list13-37.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 第3次教学中期計画 後期計画)	対象年度: 令和5年度~令和7年度)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/assessment.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 公益学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/koeki-u-policy.html)</p> <p>(概要) 公益学部公益学科では、世界と地域の変化を見据え、精神的な豊かさを享受でき、かつ経済的にも持続可能な地域社会をデザインするために、必要な知識とスキルを身につけ、かつ多様な人々とともに課題解決に取り組むことができる実行力を持った人材を育成します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/koeki-u-policy.html)</p> <p>(概要) 公益学部では、学修活動を通じて下記の力を身につけた者に、学則に則り学士（公益学）の学位を授与します。</p> <p>DP1 課題を見つける力 社会や地域の課題に対し問題意識を持ち、科学的な知識を応用して具体的な課題を見出すことができる。「科学的思考力」と「当事者意識」の観点で評価する。</p> <p>DP2 探究に必要な知識 多様な価値観を理解し、長期的かつ幅広い視点に立って考えることができる知識を有している。「多文化理解に必要な知識」と「持続可能な社会づくりに必要な知識」の観点で評価する。</p> <p>DP3 課題を分析する力 信頼性が高い情報を適切に収集し、数量的に把握するなど検証可能な形で課題を分析することができる。「情報収集力」と「数量的思考力」の観点で評価する。</p> <p>DP4 課題解決策を考える力 課題の背景を科学的に分析して検証可能な仮説を立て、それを客観的な方法で検証して課題解決策を提案することができる。「仮説形成力」と「仮説検証力」の観点で評価する。</p> <p>DP5 課題解決策を実行する力 多様な意見をまとめ、スケジュールを立てて PDCA サイクルを回しながら課題解決に取り組むことができる。「合意形成力」と「マネジメント力」の観点で評価する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/koeki-u-policy.html)</p> <p>(概要) ○基礎教育科目・リメディアル科目 ・「スタディー導入科目」 「DP1 課題を見つける力」の「科学的思考力」と「当事者意識」、及び「DP3 課題を分析する力」の「情報収集力」を養うため、「基礎演習」「探究演習」「現代公益論」「山形地域論」の 4 科目 8 単位を必修とします。 ・「リテラシー科目」 「DP1 課題を見つける力」の「科学的思考力」と「当事者意識」、「DP2 探究に必要な知識」の「多文化理解に必要な知識」、及び「DP3 課題を分析する力」の「情報収集力」と「数量的思考力」を養うため、「外国語科目」「情報科目」各 8 単位を必修とするほか、「キャリア科目」に必修 4 単位を配置します。 ・「共通科目」</p>

「DP1 課題を見つける力」の「科学的思考力」、「DP2 探究に必要な知識」の「多文化理解に必要な知識」と「持続可能な社会づくりに必要な知識」、及び「DP3 課題を分析する力」の「数量的思考力」を養うため、「人文科学系」「社会科学系」「STEAM 導入科目」「SDGs 導入科目」の4つの科目区分を設け、所定の基準に従って一定以上の単位を修得することを卒業要件とします。

- ・「リメディアル科目」

多様な学生を受け入れたうえで、入学前学習と連携しつつ、国語力と数学力が一定の水準に達しない学生に、それぞれ「国語基礎」「数学基礎」の修得を義務付けます。

○専門教育科目・発展教育科目

- ・「専門基礎科目」「発展教育科目」

「DP1 課題を見つける力」の「科学的思考力」、「DP2 探究に必要な知識」の「多文化理解に必要な知識」と「持続可能な社会づくりに必要な知識」、「DP3 課題を分析する力」の「数量的思考力」、及び「DP4 課題解決策を考える力」の「仮説形成力」を養うため、各コースの専門分野から所定の基準に従って一定以上の単位を修得することを卒業要件とします。また、「発展教育科目」に「社会福祉士養成課程」「キャリア発展科目」「外国語発展科目」の科目区分を設け、修得した単位を一定の範囲で卒業単位に含めます。

- ・「応用演習科目」

「DP1 課題を見つける力」の「当事者意識」、「DP4 課題解決策を考える力」の「仮説形成力」と「仮説検証力」、及び「DP5 課題解決策を実行する力」の「合意形成力」と「マネジメント力」を養うため、4単位以上修得することを卒業要件とします。

- ・「専門演習」

「DP1 課題を見つける力」の「当事者意識」、「DP4 課題解決策を考える力」の「仮説形成力」と「仮説検証力」を養うため、8単位を修得することを卒業要件とします。

○「データサイエンス・AI 教育プログラム」

・「DP3 課題を分析する力」の「数量的思考力」を養うため、「基礎教育科目」と「専門教育科目」のうち所定の科目の単位を修得します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/koeki-u-policy.html>)

(概要)

公益学部では、世界と地域の変化を見据え、精神的な豊かさを享受でき、かつ経済的にも持続可能な地域社会をデザインするために、必要な知識とスキルを身につけ、かつ多様な人々とともに課題解決に取り組むことができる実行力を持った人材育成を教育目標として掲げています。そのため、本学部の教育目標とディプロマ・ポリシーに照らして、カリキュラム・ポリシーに設定されている教育を受けうる人材を求めるところから、次のアドミッション・ポリシーに掲げる勉学意欲の高い学生を受け入れます。

- ・AP1 高等学校卒業水準の基礎学力を有している。
- ・AP2 精神的な豊かさや持続可能な社会の発展について、強い関心を持っている。
- ・AP3 文理・分野横断で事象を多面的にとらえるために必要な思考力・判断力・表現力・探究心・知的好奇心を有している。
- ・AP4 多様な人々とともに社会や地域の課題解決に挑戦する意欲を有している。

学部等名 国際学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/koeki-u-policy.html)</p>
<p>(概要) 英語を主軸としつつ、多言語・多文化への理解と対応力も備えた言語運用能力と国際社会に対する洞察力をもち、異文化や自国の文化への深い見識と多文化共生を推進する能力を活かし、地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に貢献する人材します。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/koeki-u-policy.html)</p>
<p>(概要) 国際学部国際コミュニケーション学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程を通じて卒業に必要な単位を修得し、所属する学部が定める卒業要件を満たし、次の学修成果が確認できたものに、学士(国際コミュニケーション)の学位を授与します。 具体的には次の目標に達していることが学位取得の要件となります。 DP1 幅広い知識と理解 分野横断的な学びを通し、言語、文化、社会等、国際コミュニケーションを行う上での前提となる、幅広い知識を身につけている。 DP2 言語運用能力 国際共通語としての英語に対するリテラシーを持ち、異なる言語環境に柔軟に対応しながら、コミュニケーションを行うことができる。 DP3 多文化共生力 多様な文化や価値観を理解し尊重するとともに、異なる文化的背景を持つ人々が共に暮らす社会において生じる課題を捉え、より良い共生のあり方について主体的に考えることができる。 DP4 洞察力 グローバル社会の諸問題について、その社会的背景の理解に基づき分析することができる。 DP5 構想力 地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に向け主体的に学ぶ態度を持ち、これらの推進に向けた課題を発見し、解決に向けた方法を考え、表現することができる。 DP6 行動力 学修経験を活かし、地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に向け、行動することができる。 DP7 デジタルリテラシー デジタルツールを効果的に活用し、情報の収集、分析、評価、発信する能力を持っている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/koeki-u-policy.html)</p>
<p>(概要) カリキュラム・ポリシー:CP ・DP1 を達成するため、基礎教育科目スタディー導入科目「現代公益論」及びリベラルアーツ・STEAM 導入科目に加えて、専門教育科目に共通専門科目「国際コミュニケーション概論」等の科目を配置し必修とするほか、専門基礎科目に英語学・文学領域、多文化理解領域、国際社会領域の科目を配置し、複数分野からの単位の修得を義務づける。 ・DP2 を達成するため、基礎教育科目にEAP(必修)を配置するほか、多言語科目を配置する。専門基礎科目のⅠ類に英語コミュニケーション分野、英語学、英語文学分野の科目を配置する。また英語で行う専門教育科目を配置することでコミュニケーション力を養う。 ・DP3 を達成するため、専門基礎科目のⅡ類に「日本文化入門」「グローバル化時代の地域社会」をはじめとした多文化理解及び多文化共生の推進に関する科目を配置する。 ・DP4 を達成するため、専門基礎科目のⅢ類に「国際社会学」をはじめとした国際社会の科目を配置する。 ・DP2、3 を達成するため、海外への留学を義務づける。 ・DP4、5、6 を達成するため、専門教育科目に応用演習科目や専門演習を配置して履修を義務づけ、学修経験を活かしながら、課題解決に向けて実践的に取り組めるようにする。</p>

・DP7 を達成するため、『データサイエンス・AI 教育プログラム』の各科目を配置する。
・DP1 から DP7 を達成するため、アクティブラーニング科目を多く配置し、地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に対する主体的な意識や態度を養う。
・DP1 から DP7 を達成するため、PBL 形式の演習科目や少人数教育、習熟度別クラス編成を行う。
・学修成果の評価はシラバスの「成績評価基準」で明示した方法により行う。また、学生による授業評価や、卒業生調査及び卒業時調査等の結果を踏まえ、カリキュラムの改善に努める。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/koeki-u-policy.html>)

(概要)

国際学部では、英語を主軸としつつ、多言語・多文化への理解と対応力も備えた言語運用能力と国際社会に対する洞察力をもち、異文化や自国の文化への深い見識と多文化共生を推進する能力を活かし、地域社会の国際化やグローバル社会の持続可能な発展に貢献する人材の養成を教育目標として掲げている。そのため、本学部の教育目標とディプロマ・ポリシーに照らして、カリキュラム・ポリシーに設定されている教育を受けうる人材を求めることから、次のアドミッション・ポリシーに掲げる学修意欲の高い学生を受け入れる。

- 高等学校卒業水準の基礎学力を有し（英語については CEFR A2 相当以上）、適切な表現をすることができる。また、英語力の修得に高い意欲を有している。
- 文理・分野横断で事象を多面的にとらえるために必要な思考力・判断力を有している。
- 多文化共生を推進する力を学びを通じて身につけ、地域社会の国際化やグローバル社会の発展に貢献したいという意欲を有している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/info2.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
公益学部	－	14人	8人	2人	2人	0人	26人
国際学部	－	6人	5人	0人	0人	0人	11人
エクステンション 教育機構	－	3人	3人	0人	1人	0人	7人
大学院	－	1人	0人	0人	0人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				57人			57人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.koeki-u.ac.jp/site/kyouin/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
公益学部	235人	287人	122.1%	960人	920人	95.8%	10人	7人
国際学部	－人	－人	－%	－人	－人	－%	－人	－人
合計	235人	287人	122.1%	960人	920人	95.8%	10人	7人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
公益学部	195人 (100%)	4人 (2.1%)	181人 (92.8%)	10人 (5.1%)
国際学部	－人 (－%)	－人 (－%)	－人 (－%)	－人 (－%)
合計	195人 (100%)	4人 (2.1%)	181人 (92.8%)	10人 (5.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>例年 10 月の教育推進委員会で次年度のシラバス作成方針が協議され 11 月の教授会において全学で共有される。11 月から 1 月にかけて各担当教員がウェブ上のフォーマットを活用して作成する。その後、教育推進委員が分担してすべての科目の第三者チェックを実施し、3 月中にシラバスをウェブ上で公開している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>東北公益文科大学学士課程では、「尊重し調和へ」の理念に基づき、「公益」の視点から多様な人々と協働し、持続可能な社会の発展に貢献する人材を育成します。</p> <p>この目標の達成のため、本学では教育課程を通じて、卒業に必要な単位を修得し、所属する学部が定める卒業要件を満たし、次の学修成果が確認できたものに学士の学位を授与します。</p> <p>DP1 知識・理解 幅広い知識と専門分野における基本的な知識を身につけ、それらを活用して、社会の諸問題を多角的な視点からとらえることができる。</p> <p>DP2 コミュニケーション力・発信力 相手の考えや情報を正確に理解し、自分の考えや情報を正確に伝え、相互理解に基づいた交流を行うことができる。</p> <p>DP3 国際感覚 自国の歴史と文化を理解し、世界の動向に積極的に関心を持ち、多様な文化を持つ人々とコミュニケーションをするための知識とスキルを備えている。</p> <p>DP4 創造力・企画力 既存の情報や知識を収集・分析し、現状の課題を明確化し、解決のためのアイデアを提案した上で、それを実現するための計画を立案することができる。</p> <p>DP5 リーダーシップ 多様な価値観を持つメンバーの個性や多様な意見を尊重し、共通の目標に向かって、自ら考え、互いに協力し、責任をもって行動することができる。</p>

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
公益学部	公益学科	124 単位	有・無	単位
国際学部	国際コミュニケーション学科	124 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/list12.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
公益学部	公益学科	535,800 円	(県内) 282,000 円 (県外) 564,000 円	0 円	令和 8 年度より変更
国際学部	国際コミュニケーション学科	535,800 円	(県内) 282,000 円 (県外) 564,000 円	0 円	令和 8 年度より変更

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組		
(概要)		
次表の各項目について、全学的に支援をおこなっている。		
	学修支援内容	関連部署
1)入学前教育	・ 入学前学習	入試事務室 教務学生課 学修支援部会
2)初年次教育	・ 新入生オリエンテーション・ ガイダンス ・ 時間割作成 ・ 基礎演習、探究演習 ・ キャリアデザイン a ・ ドミトリー(学生研修寮)教育 ・ 自校教育 ・ 日本語教育	教務学生課 アドバイザー教員 科目担当教員 教育推進センター 学生支援センター キャリア開発センター 国際交流センター
3)修学支援	・ 年次別オリエンテーション ・ オフィスアワー ・ T A ・ 欠席調査 ・ 休退学相談 ・ 教育改善意見交換会 ・ 学修・授業支援サービス	教務学生課 アドバイザー教員 科目担当教員 保健管理部学生相談室

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

本学では、1年次からじっくりと自分のキャリアに向き合ってもらうため、さまざまなキャリア科目を展開しています。1年生を対象にした「キャリアデザインa」、2年生対象の「キャリアデザインb」、3年生対象の「就職セミナー」などは単位化。少人数の良さを十分に活かしたきめ細かな教育を行うとともに、インターンシップの選択必修化や3年生全員を対象にした個別面談など、学生一人ひとりの進路実現を大学挙げてバックアップしています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

■健康支援

健康管理室を設置し、病気やけが等の応急処置や心身の健康に関する相談に応じています。なお健康管理室で対応できない場合は、学校医又は医療機関を紹介します。

■生活や授業に関する支援

- ・全ての教員が「オフィスアワー」という学生相談のための時間帯を設けています。
- ・学生相談室を設置し、学校生活や学業のこと、将来の進路や自分自身のことなど学生生活全般へのサポートを行っています。また、青年期によくみられる悩みに対し、専門的な相談員を置き、相談を受け付けています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.koeki-u.ac.jp/site/about-us/list10-24.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。